

平成 26 年 11 月 20 日
株式会社日本政策金融公庫

農業の成長産業化向け融資が増加 ～上半期の「人・農地プラン」、6次産業化、新規就農向けで～

日本政策金融公庫（略称：日本公庫）農林水産事業の平成26年度上半期融資実績は1,375億円（うち農業融資952億円）で、「人・農地プラン」に基づく特例制度が措置されているスーパーL資金の融資が764億円、6次産業化関連の融資は326億円、また、新たに農業経営を開始する方向への融資は18億円となり、いずれも前年同期と比べて増加しましたので、お知らせします。

今後とも、日本公庫は、農林水産業の成長産業化のための多様な取組みを、融資とマッチングなどの経営支援サービスの両面から積極的に支援してまいります。

＜＜ポイント＞＞

○「人・農地プラン」の特例融資、引き続き伸びる

上半期の融資実績は、前年同期と比べて166億円増加し、1,375億円（前年同期比114%）となりました（下表）。このうち、農業融資は952億円（同125%）で、「人・農地プラン」の中心経営体向けの特例制度（※）を中心に担い手の経営発展を支援するスーパーL資金の融資実績は、前年同期と比べて231先、263億円増加し、2,857先（同109%）、764億円（同153%）となりました（図1）。

地域別にみると、北海道が830先、次いで、九州が540先、関東甲信越が478先となっています（図2）。

営農類型別にみると、稲作が949先、露地野菜及び施設野菜が合わせて587先、畑作が219先と耕種部門が73%を占めています。また、酪農が312先、肉用牛が290先と畜産部門が26%を占めています（図3）。

※ 市町村が策定する地域農業の未来の設計図「人・農地プラン」において、地域の中心経営体に位置付けられた認定農業者がスーパーL資金を利用する場合、貸付当初5年間は実質無利子化されます。

表 融資金額の推移(H24・25年度、H25・26年度上半期)

(単位:億円)

	H24年度	H25年度	H25年度 上半期	H26年度 上半期	前年同期比
農業	2,176	2,303	762	952	125%
スーパーL	1,097	1,513	500	764	153%
人・農地	651	977	372	580	156%
林業	180	254	55	105	190%
漁業	227	138	59	115	195%
加工流通	602	622	331	201	61%
合計	3,187	3,318	1,209	1,375	114%

○6次産業化融資は農業が9割、稲作と野菜で多く

6次産業化に取り組んでいる方々に対する生産、加工、販売施設の整備や長期運転資金など6次産業化関連の融資実績は、前年同期と比べて217先、193億円増加し、512先（前年同期比174%）、326億円（同245%）となりました（図4）。

地域別にみると、関東甲信越が120先、次いで、近畿が94先、東北が77先となっています（図5）。

業種別にみると、農業が493先と全体の96%を占めており、漁業が11先、林業が6先となっています。さらに営農類型別では、稲作が134先、露地野菜及び施設野菜が合わせて85先、果樹が66先と耕種部門が69%を占めています。また、肉用牛が52先、養豚が22先、酪農が21先と畜産部門が25%を占めています（図6）。

○新たに農業を開始した融資先の6割が野菜生産

新規就農者や農業への参入企業など、新たに農業経営を開始する方向けの融資実績は、前年同期と比べて11先、5億円増加し、71先（前年同期比118%）、18億円（同141%）となりました（図7）。

地域別にみると、九州が18先、次いで、中国四国が15先、関東甲信越が11先となっています（図8）。

営農類型別にみると、露地野菜及び施設野菜が合わせて41先と全体の58%を占め、次いで、果樹が10先、稲作が9先となっており、耕種部門が92%を占めています（図9）。

また、平均融資額は、耕種部門が19百万円、畜産部門が98百万円となっており、初期投資が小さい耕種部門で農業を始める方が多いことがうかがえます。

なお、平成26年4月より日本公庫に移管された「青年等就農資金」の融資実績は、上半期で5先、54百万円となりました。各市町村において同資金の借りに必要となる青年等就農計画の認定のための体制整備が9月末に終わり、10月から本格的な運用がスタートしています。

（「人・農地プラン」に基づく特例制度、6次産業化関連及び新たに農業を開始した融資先の事例を参考資料として添付しましたので、ご参照ください。）

注）スーパーL資金、6次産業化関連及び新たに農業を開始する方への融資実績は重複している場合があります。

図1 スーパーL資金の融資実績の推移(H24・25年度、H25・26年度上半期)

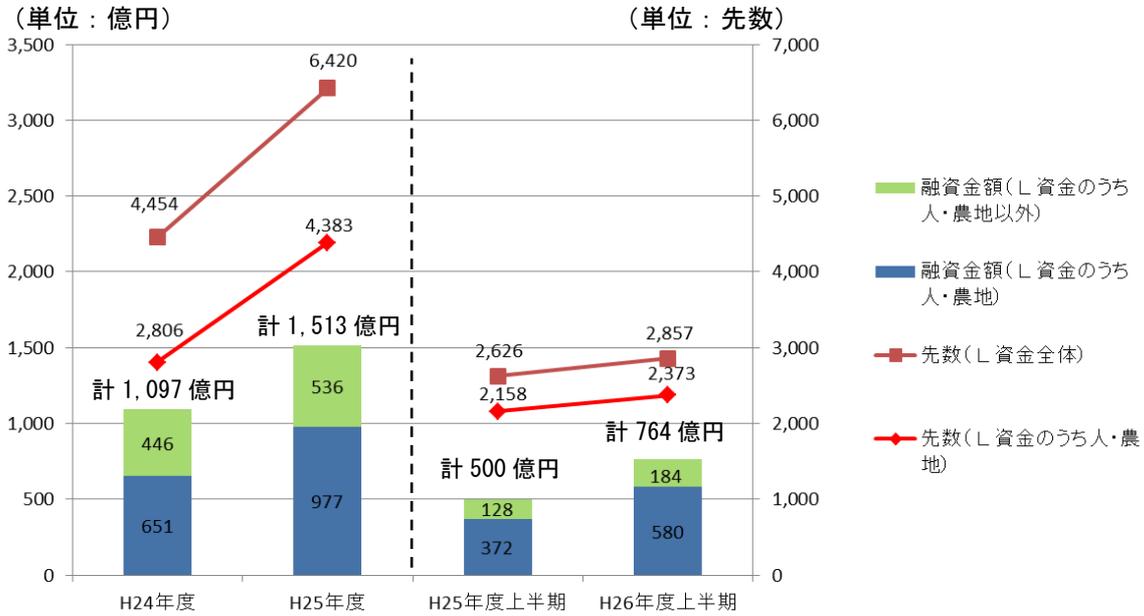


図2 スーパーL資金の地域別融資先数(H26年度上半期)

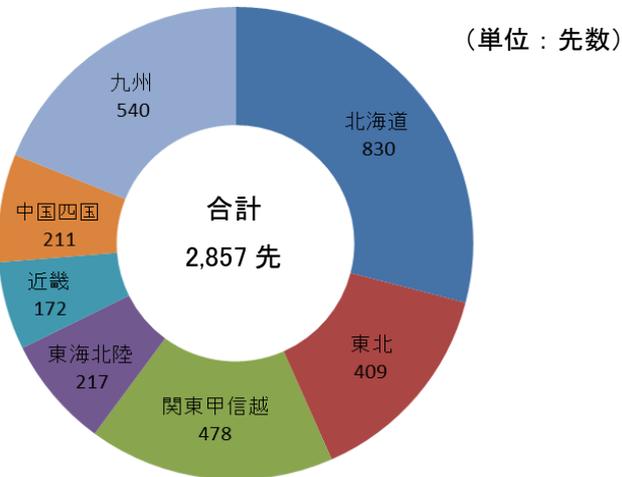


図3 スーパーL資金の営農類型別融資先数(H26年度上半期)

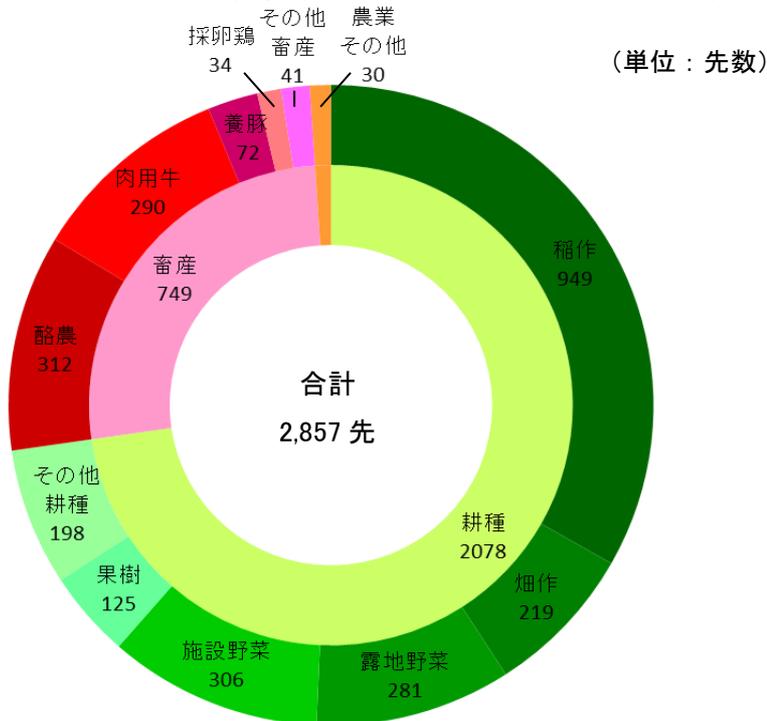
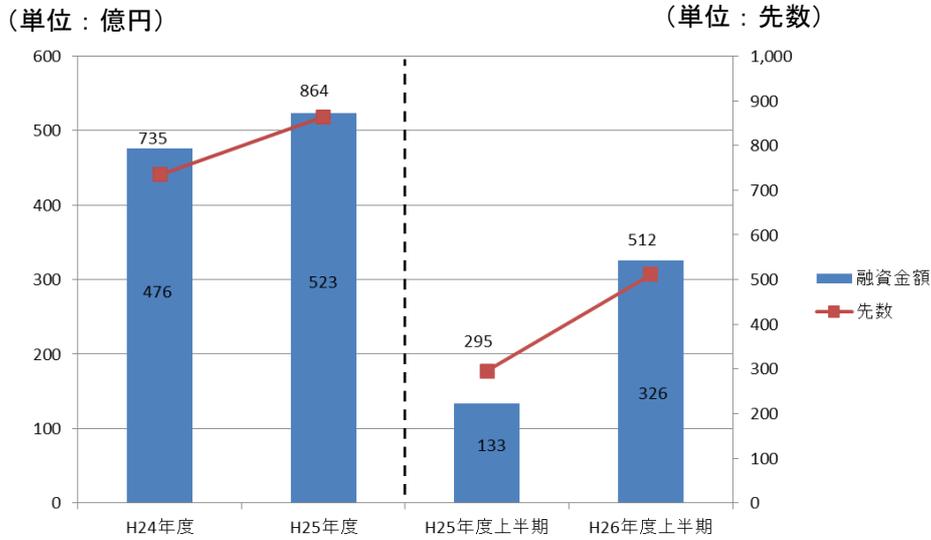


図4 6次産業化関連の融資実績(※)の推移(H24・25年度、H25・26年度上半期)



※ 6次産業化に取り組んでいる方々に対する生産、加工、販売施設の整備のための設備資金や長期運転資金

図5 6次産業化関連の地域別融資先数(H26年度上半期)

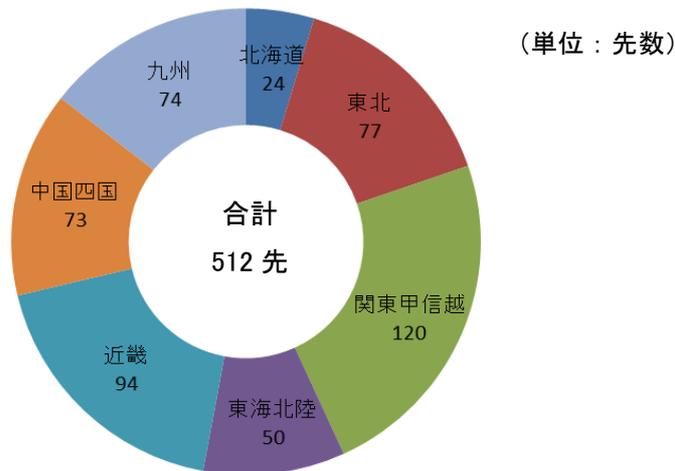


図6 6次産業化関連の営農類型別融資先数(H26年度上半期)

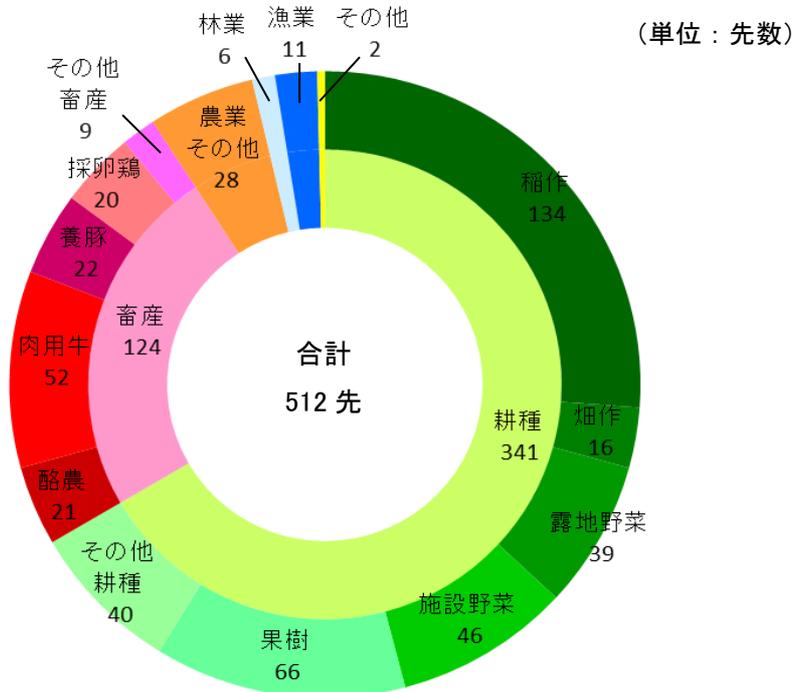


図7 新たに農業を開始する方への融資実績の推移(H24・25年度、H25・26年度上半期)

(単位：億円)

(単位：先数)

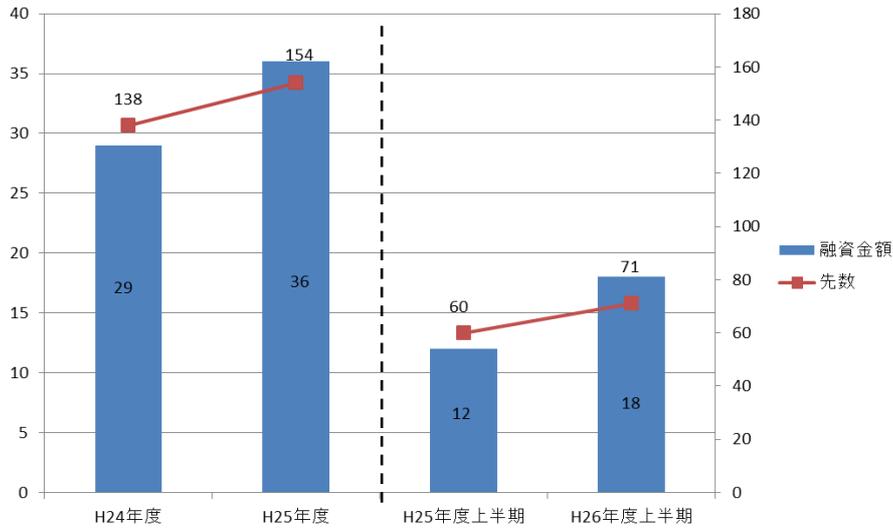


図8 新たに農業を開始する方への地域別融資先数(H26年度上半期)

(単位：先数)

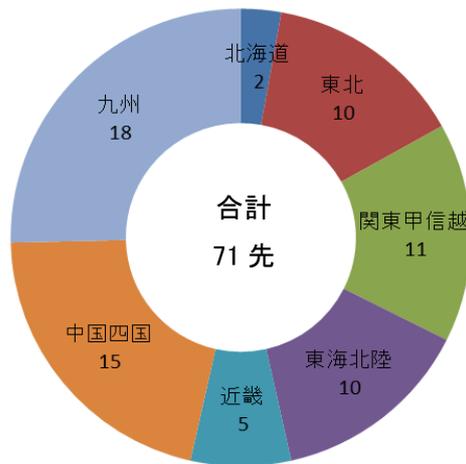
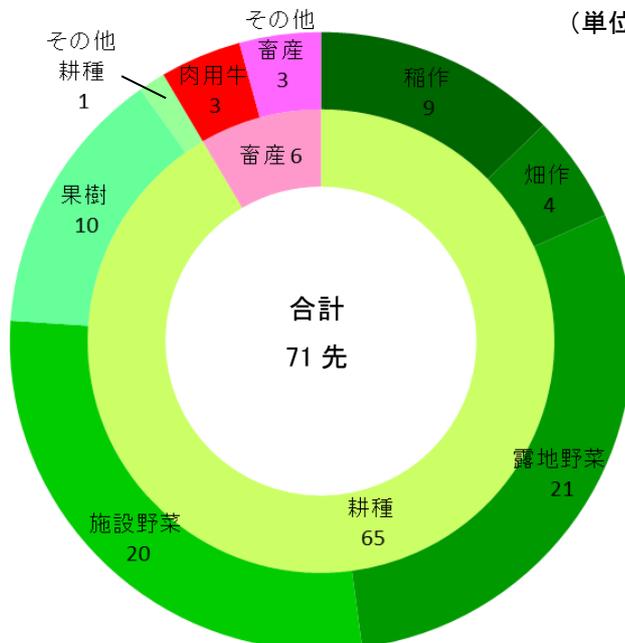


図9 新たに農業を開始する方への営農類型別融資先数(H26年度上半期)

(単位：先数)



注) 金額の単位未満は切り捨てているため、ニュースリリースの本文と図の数字が一致しない場合があります。

平成 26 年度日本公庫農林水産事業の融資事例

1 (人・農地プラン) 規模拡大を見据えた経営基盤強化を支援 【スーパーL 資金/設備資金】

顧客名	農業生産法人 ライスフィールド有限会社	代表取締役	吉岡 雅裕
所在地	島根県松江市	業種	稲作
<p>【概要】</p> <p>当社は、100ha の農地で主食米、飼料米、そば等を生産する地域最大規模の稲作農業者で、人・農地プランにおける中心的経営体に位置付けられています。地域では農業者の高齢化により、当社の作付面積や作業受託面積が今後一層拡大していくことが見込まれます。そこで、コンバイン等大型機械を導入するとともに、稲わらや資材を保管するハウスを設置しています。</p> <p>日本公庫松江支店は、上記に必要な設備資金を融資し、規模拡大に取り組む当社の経営基盤強化を支援しました。</p>			

2 (6次産業化) 加工・販売事業強化のための施設整備を支援 【スーパーL 資金/設備資金】

顧客名	ひふみ養蜂園株式会社	代表取締役	尾形 玲子
所在地	千葉県館山市	業種	養蜂
<p>【概要】</p> <p>100%国産の「本物のハチミツ」を生産販売してきた当社は、消費者とのふれあいや加工販売事業強化による収益向上のため、イトインスペースや和風庭園を備えた直売店舗を新設しました。新店舗では自社のハチミツを使用したジェラートやドレッシング等の加工販売を行うとともに、蜜ろうキャンドルの作成体験会を開催する予定です。</p> <p>日本公庫千葉支店は、新店舗建設に必要な設備資金を融資し、女性が活躍する農業法人(役員・従業員8名のうち6名が女性)の6次産業化の取組みを支援し、地域の雇用創出を後押ししました。</p>			



新開発のハチミツジェラート

3 (新規就農) 新規就農後の経営発展のための施設整備を支援 【青年等就農資金/設備資金】

顧客名	大山 隆	業種	施設野菜 (イチゴ)
所在地	香川県東かがわ市		
<p>【概要】</p> <p>大山氏は平成 22 年、31 歳の時に一念発起し、ヘアメイクデザイナーから転身、新規就農し、イチゴ栽培を開始しました。前職の経験や人脈を活かし、パッケージにもこだわりながら独自ブランド「空浮いちご」や贈答用の「フレベリー」を展開し、徐々に取引先からの評価も上がっています。そこで需要拡大や直接購入に来てくれる顧客ニーズに対応するため、ビニールハウスの増設と直売所兼作業場を建設しました。</p> <p>日本公庫高松支店は、上記に必要な設備資金を融資し、若手の新規就農者の定着と収益向上を支援しました。</p>			



独自ブランド「空浮いちご」